

# H23・24年度 宮崎県社会教育委員会議 提言の全体構成

## 背景：地域の教育力

- 今日の社会は、地域の課題が多様化・複雑化している。また、地域の人間関係や連帯感が希薄になってきている。
- 地域活動を担う組織や団体の連携、情報交換、相互交流が求められている。

第二次  
宮崎県  
教育振興  
基本計画

## 背景：家庭の教育力

- 核家族化や少子化、共働き世帯の増加から、子どもたちを取り巻く環境や家庭教育を支える環境が大きく変化している。
- 「子どもは大人の背中を見て育つ」とも言われる。手本となるべき「親としての学び」を支援することが求められている。

### 「コミュニティ社会の再構築 ～地域の課題解決を図るためのシステムづくり～」

### 「家庭の教育力の向上に向けた新たな方策づくり」

#### 地域の教育力の向上

#### 家庭の教育力の向上

団体や組織が類似の事業を企画、実施しているが、事業に重複感がある。  
地域コーディネーターが少ない。

地域の組織や団体が集まって、情報を共有したり、連携したりする場や機会が少ない。  
新たなネーミングが有効と考えられる。

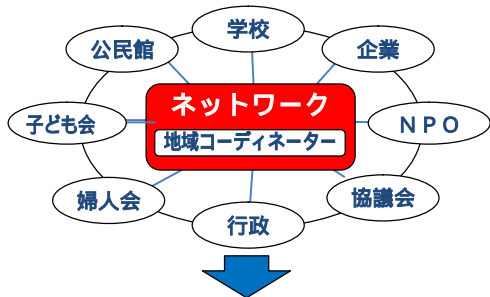
地域の活動の企画・運営に携わる人材の固定化が見られる。  
子どもの主体的な参画機会が少ない。

親が身近な人から子育てを学ぶ場や機会が減少している。  
家読の取組が広がってきている。

#### 提言 1

#### 多様な主体による横の連携

- 地域の各団体や企業、NPO、学校等が必要な情報を共有し、連携するネットワークづくり
- 新たなネーミングのネットワークの検討  
提言 2 に詳述
- 家庭・学校・地域の連携を図る、地域コーディネーターの配置

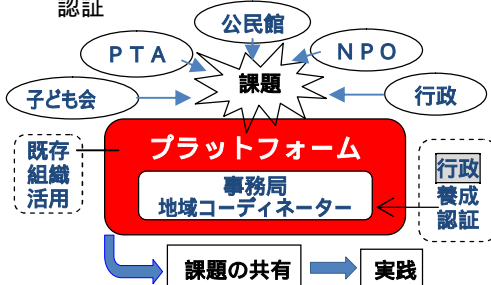


深化

#### 提言 2

#### 地域教育のプラットフォームづくり

- 様々な組織や団体等を結び付け、コーディネート機能を備えた場となる「地域教育プラットフォーム」の設置
- 継続できるプラットフォームの拠点と地域コーディネーターの配置
- 核となる地域コーディネーターの養成・認証

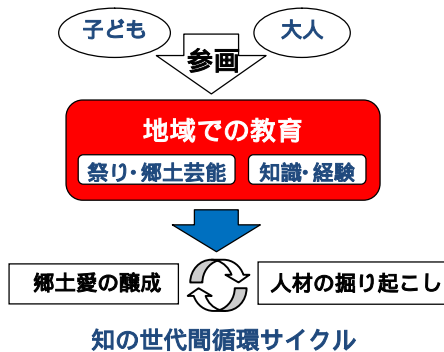


「地域教育のプラットフォーム」…地域の指導者や関係機関・団体が集まる場を、「多彩な電車や多くの人が行き来する駅のプラットフォーム」にたとえ、それぞれが必要とする情報や教育資源、課題を共有し、地域の社会教育を推進していく仕組み

#### 提言 3

#### 人材の地育地活

- 「参加」から「参画」するシステムづくり
- 地域の人材の掘り起こし
- 知の世代間循環サイクルの形成



「人材の地育地活」…地域の子どもたちを地域に貢献する人材に育てることにより次の世代を育成するサイクルを構築する活動

#### 提言 4

#### 親の学びと家族の絆づくり

- 親の育ちを応援する「親の学び」の展開
- 教育と福祉が相互に連携した子育て支援
- 親子のコミュニケーションを豊かにし、家族の絆を育む活動

